様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ６ 月　 １ 日現在

機関番号：１５４０１
研究種目：基盤研究(B)（海外学術調査）
研究期間：2013～2016
課題番号：２５３０１０４７

研究課題名（和文）子育て家族のためのソーシャルサポートに関する日本・中国・韓国の比較調査研究

研究課題名（英文）The cnparative reseach on the sosial suppor of parenting between Japan, China and Korea.

研究代表者
七木田　敦（Nanakida, Atsushi）

広島大学・教育学研究科（研究院）・教授

研究者番号：６０２５２８２１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　5,300,000円

研究成果の概要（和文）：本年は研究最終年にあたり、子育て中の家族が生活するにあたり、どのような子育てニーズを有しているのか、そのニーズは現在家族が置かれている状況、について、中国・韓国・日本を対象に質的な調査を実施した。その結果、同じアジア圏である社会的文化的背景の異なる日本、中国、韓国の子育て家庭の比較において、経済成長が著しい中国社会にあつては、母 親の子育て負担や不安が高かった。日 本 韓国の実態と 比較することで、具体的な対処方法の必要性が示唆された。核家族化と地域ネットワークの弱体化は、育児に関する知識・技術の伝承を阻害し、母親の孤立化がその背景となっていることが明らかとなった。

研究成果の概要（英文）：The main finding is that the burden and anxiety of China mother’s child-rearing is the highest among three Asian countries which have different social cultural background. We could suggest that it was especially important to develop the program to deal with problem of child-rearing in China though comparing the condition of Japan and Korea. At the result, growth of the nuclear family and weakening community networks prevent the knowledges and techniques of child-rearing inheriting and increase the isolation of mothers. It suggested that father’s role of social support is important to decrease mother’s anxiety and stress. It was held two international symposiums in China and Korea. We discussed with collaborative researchers in each countries about scheme to improve of quality of life (QOL) of families who have young children.

研究分野：幼児教育学

キーワード：子育て支援　国際比較　ソーシャルサポート　子育てストレス　父親　母親　韓国　中国

１．研究開始当初の背景

近年、わが国では核家族化と地域ネットワークの弱体化は、育児に関する知識・技術の伝承を 阻害し、母親の孤立化が顕著となっている。孤立した状況では些細な原因による育児不安やスト レスが解消されることなく積み重なり、深刻な事態が引き起こされる可能性があり、親子関係の 発達、子どもの心の発達への影響が懸念されている。母親のおかれた育児環境を的確に把握し、 母親が抱える育児不安や孤立感を軽減するための環境を整備することは喫緊の課題となっている。韓国では、高学歴社会への移行を背景に、より子育て中の母親の育児不安やストレスが高い ことが知られており（総務庁 1996)、近年の合計特殊出生率の急激な低下の原因になっていると されている。

また中国では近年、研究論文に「育児不安」という記述が散見されはじめているが、 大規模な調査は未実施であり、国際的な比較研究による検討が待たれている状態である。これまで「育児不安」や「子育てストレス」の調査研究では、主に子育て中の母親に焦点を当て分析され、その原因が母親の「心理的問題」に帰結されることが多かった。そのため研究から 示唆された知見も「母親の気持ち次第で子育ては変わる」といったもので、むしろ母親の不安や ストレスを助長するものになっている。母親の不安軽減やストレス低下には、子育てにおけるソーシャルサポート源としての父親の役割が大きいことは知られている。

本研究では、子育て中の 母親、父親の両方を調査の対象にすることで、家庭の持つ機能性を視野に入れた提言が可能となる。同じアジア圏にありながら、それぞれ社会背景や文化が異なる、中国、韓国、そして日本の 比較研究を実施することで、子育て中の家族に対する社会経済的な視野を拡大し、福祉・教育面 への影響について有益な視点がもたらされると考える。

２．研究の目的

本研究の目的は、中国、韓国、そして日本での子育て中の母親・父親への調査を通じて、家族の 育児不安やストレスを低減し、そのQOL（生活の質）を高めるには、どのような子育て支援及びソーシャルサポート（社会的支援）が必要であるかということを明らかにすることである。特に子 育て中の母親だけでなく、父親も調査の対象にすることで、母親の不安やストレスの軽減に通じる支援について夫婦の間での心理的な依存関係も踏まえ明らかにする点で意義がある。

日本、中国、韓国の国際比較の視点から検討された適切な支援が実行されることで、それぞれの国の子育てニーズが明らかになり、また身体的虐待やネグレクト、そして貧困から生じるストレスといった現代の家族の抱える問題を解決することに寄与するものと考える。本研究では平成 20-23 年の研究（日本・ニュージーランドの発達障害児とその家族のためのソーシャルサポートの国際比較）の成果を踏まえ、効果的な社会的介入の方法や、ソーシャルサポートを公的 にするための方法を提案することが求められた。意義ある国際比較研究を実行に移すために、日中韓の参加者が一同に会して活発に知識や意見の交換をし、綿密で実行可能な研究計画を練ることが不可欠となった。研究期間内に明らかにするのは、次の 2 点である。

1. 日本・中国・韓国の子育て家庭の育児ストレス、生活の質（QOL）の実態について上記で検討したアプローチにより、日本・中国・韓国の家族を対象に、調査に基づいた質的研究 を実施する。保育所幼稚園から小学校への接続期、ヘルスケアと教育支援、障害の診断などについて、グループインタビュー(FGI)や観察による質的研究によって、量的研究ではとらえられない 異なった社会―文化的背景での「生の現実」について明らかにする。とりわけ、子育て家族の家 族構成に着目し、子ども、父親、母親、そして祖父母などにも可能な限り調査を実施し、家族成員間での比較をする。

2. 育児不安やストレスの軽減のための効果的なソーシャルサポートの分析　 家族成員別に求めるソーシャルサポートの実態を明らかにすることによって、総体的に子どもとその家族が必要としているソーシャルサポートについて明らかにする。

近年では、より生活に密着した実際的な様相を描き出すために、グループインタビューや観察などの手法を中心とした質的研究が盛んに実施されており、本研究でもその方法論を用いた。

本研究で扱う QOL、またソーシャルサポートについては、量 的にはとらえられない人間の生の現実を調査・研究するために質的研究法が必要となる。そこで、 本研究では、ニュージーランドを対象とした平成 20-23 年の調査方法をもとに、より実際的な「生 活世界」を記述するための質的な評価を含んだ新たなアプローチについても検討した。

３．研究の方法

本研究では、子育て中の家族の育児不安やストレスを軽減し QOL（生活の質）を高めるには、どのようなソーシャルサポートが必要であるかということを明らかにするために子育て中の母親、父親を対象に量的調査及び質的調査を行った。対象は中国北京市、大連市、韓国ソウル市の就学前施 設、小学校、親の会などとし、ソーシャルサポートの現状と課題に関する聞き取り、実際の活動場面を観察しその記録の分析を行った。

同様の調査・分析を日本においても、東京都、 広島市、名古屋市、高松市にて行った。子育本調査は、中国・北京市、韓国・ソウル市を対象とした。中国北京においては、研究代表者が勤務する大学と研究協定を結んでいる北京師範大学・学前教 育センターとの

共同研究として実施した。同センターには実験幼稚園が 4 園あり、その園を利用 している幼児の家庭を対象として、調査を実施した。調査の内容は、次の通りである。

本研究では、子育て中の家族が生活するにあたり、どのような子育てニーズを有しているのか、そのニーズは現在家族が置かれている状況、例えば、保育所幼稚園から小学校への 接続期、教育支援、社会保障などによってどのように変化するのか、質的に調査した。そこでま ず、子どもの生活の場である就学前教育施設、小学校、親の会を対象に訪問調査を実施するとともに、QOL（生活の質）を高めるための社会的支援の検討に取り組むための基礎的資料の収集を行った。

子育てにかかわるソーシャルサポート（社会的支援）についてその要因は複合的である。そこでこれまでの 研究において妥当性や信頼性、内的整合性などが確認された下記の質問方法を再考し、北京師範 大学、ソウル神学大学の連携協力者と共同して対象者に負担のない簡便なものとして作成した。 1. Family Support Scale (Dunst, Jenkins, & Trivette, 1984) 2. Inventory of Social Support Behavior (Barrera, Sandler, Ramsay, 1981) 3. Parenting Stress Index (Abidin, 1983) 4. Quality of Life Inventory (Frisch, 1998) 5. Sense of Coherence Scale (Antonovsky, 1987)

４．研究成果

本年は、子育て中の家族が生活するにあたり、どのような子育てニーズを有しているのか、そのニーズは現在家族が置かれている状況、例えば、保育所幼稚園から小学校への 接続期、教育支援、社会保障などによってどのように変化するのか、中国・韓国・日本を対象に質的な調査を実施した。その結果、同じアジア圏である社会的文化的背景の異なる日本、中国、韓国の子育て家庭の比較において、経済成長が著しい中国社会にあっては、母親の子育て負担や不安が高かった。日 本 韓国の実態と 比較することで、具体的な対処方法の必要性が示唆された。核家族化と地域ネットワークの弱体化は、育児に関する知識・技術の伝承を阻害し、母親の孤立化がその背景となっていることが明らかとなった。母親の不安軽減やストレス低下には、子育てにおけるソーシャルサポート源としての父親の役割が大きいことが示唆された。中国、韓国を訪問し、それぞれの国で 「子育て中の家族の QOL（生活の質）を高めるための方策とは」という題目のもと、国際共同シンポジウムを開催した。

以下、本研究で示唆された点についてまとめる。

① 育て中の育児不安やストレス軽減に関わるソーシャルサポート研究は国内外で多いとは言えない。その中で、家庭を構成する母親と父親について焦点を当てることで、これまでの社会的支 援の理論や実践においても従来にない新たな視点が提示できた。

②アジア圏にあっても、社会的文化的背景の異なる日本・中国・韓国の子育て家庭を対象とする ことで、意義のある比較検討が可能になり、有効な方法や手段の提示が可能になった。

③特に中国においては、近年「育児不安」と言う言葉が、散見されてきたとされるが、まだ大規 模なサンプルを対象にした研究は行われていない。経済成長が著しい中国社会にあっては、母親の子育て負担や不安が高いことが明示され、日本・韓国の実態と比較することで、具体的な対処方法が提案された。 ④研究成果を、中国・韓国・日本の研究者で共有し、協議を継続的に行うことで、子育て研究の発展のみ ならず、研究データの相互利用や研究者・学生の持続的な交流がうまれた。

⑤本研究では、子育てを日常的に支援する団体、学校、保育施設など広範囲な領域からの協力を 得て遂行するものであり、実際に子育てをしている家族を対象に質的研究を通して「生の声」を 収集することに意義があった。 ⑥子育て中の家族を対象に母親、父親とそれぞれグループインタビューを実施することで、これ まで表層的にしか語られなかった子育て不安やストレスの実際について本音が明らかになった。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計３件）

１．李敏谊 七木田敦 张倩 王路曦 管亚男（2016）:低生育率时代中日两国父母育儿压力与社会支持的比较学前教育研究（低出生率時代における中国と日本の子育て支援に関する父親、母親の社会的支援に関する研修） :2017 年第 3 期（总第 267 期）46 页-54 页（査読有）

２．松井剛太・七木田敦（2015）障害のある子どもをもつ母親と父親の子育て意識に関する比較研究－フォーカス・グループ・インタビューによる質的分析－.幼年教育研究年報,37,99-106.（査読有）

３．松井剛太・七木田敦・ジュディス ダンカン・アヤ バートネック・ギャリー ホーンビィー（2014）障害のある乳幼児と家族の社会的支援に関する研究－日本とニュージーランドの比較から－.幼年教育研究年報,36,53-61 （査読有）

〔学会発表〕（計３件）

1. 七木田敦（2016）日本保教体系转型中的幼儿教育改革动向（日本の幼児教育改革の動向について）“构建尊重幼儿主动发展的课程”国际研讨会、青岛市教育学会、青岛黄海饭店、青岛市教育局、青島、中国、2016 年 5 月 16 日-18 日

2.Gota Matsui・Chie Sato・Yuki Iino・Atsushi Nanakida （ 2015 ） Improving family

involvement in a Japanese day care centre through the use of portfolios. 1 1th Early Childhood Convention (poster presentation), Hawaii, Honolulu, Jan,5-7,2015
3. Gota Matsui・Atsushi Nanakida・Judith Duncan・Garry Hornby・Aya Bartneck (2014) Acceptance of Children's Disabilities; Families' experiences and harmony with others in New Zealand and Japan. Pacific Early Childhood Education Research Association 15th Annual Conference.Nov. Seoul, Korea, 18-22, 2014.

６．研究組織

(1)研究代表者

七木田　敦（NANAKIDA ATSUSHI）
広島大学・大学院教育学研究科・教授
研究者番号：60252821

(2)研究分担者

松井　剛太（MATSUI GOTA）
香川大学・教育学部・准教授
研究者番号： 50432703

(4)研究協力者

霍力岩（HUO RIWAN）
北京師範大学・就学前教育・教授
李敏谊（LI MINYI）
北京師範大学・就学前教育・准教授
玄正煥（HYUN SEIKAN）
ソウル神学大学・幼児教育学科・教授